

新座市学童野球連盟

試合規定

新座市学童野球連盟規約、第四条（一）、（二）、（三）による試合規定を、次のとおり定める。

1. イニング数及び試合時間

大会におけるイニング数及び、試合時間はそれぞれ次による。

（1）春季大会、市民大会及び新人戦大会

a 7イニング制とし、試合開始後1時間30分を過ぎたら新しいイニングには入らない。

なお、同点の場合は時間内であっても、特別延長戦（サドンデス方式）によって勝敗を決する。

但し、2イニングの特別延長戦を行い、なお同点の場合は、抽選で勝敗を決する。

b 決勝戦の場合は、試合開始後1時間45分を過ぎたら新しいイニングには入らない。

但し、その時点で同点の場合は2イニングの延長戦を行い、なお同点の場合は、特別延長戦（サドンデス方式）で勝敗を決する。

（2）日ハム杯・予選大会及び、ジュニア大会

a 5イニング制とし、試合開始後1時間30分を過ぎたら新しいイニングには入らない。

なお、同点の場合は、時間内であっても、特別延長戦（サドンデス方式）によって勝敗を決する。

但し、2イニングの延長戦を行い、なお同点の場合は、抽選で勝敗を決する。

b 決勝戦は、試合開始後1時間45分を過ぎたら新しいイニングには入らない。

但し、同点の場合は、2イニングの延長戦を行い、なお同点の場合は、特別延長戦（サドンデス方式）で勝敗を決する。

【注】「新しいイニングに入らない」（イニングの途中で制限時間に到達した時）の扱い。

イ 先攻チームが攻撃中の場合

得点をリードしている時は、後攻チームの攻撃完了をもって終了。

なお、逆転した時はその時点で終了。

ロ 後攻のチームが攻撃中の場合

得点をリードしている時は、その時点の打者の打撃の完了をもって終了。

但し、その回に得点があればそれを記録する。

2. 特別延長戦（サドンデス方式）

試合における、特別延長戦は次による

（1）特別延長戦は、継続打順としイニング終了時の最終打者を1塁走者、順次前の打者を2塁、3塁の走者とし、無死満塁の状態でも最大2イニングを行い得点の多いチームを勝者とする。

（2）抽選による勝敗は、予め用意した○及び×の用紙それぞれ9枚を封筒に入れ、最終イニングの選手が先攻チーム、後攻チームの順に交互に抽選し○の多いチームを勝者とする。

3. ダブルヘッダーの禁止

連盟が主催のすべての大会において、ダブルヘッダーによる試合は行われないものとする。

4. コールドゲーム

大会における試合のコールドゲームは次による。

(1) 試合の点差によるコールドゲームの成立

イ 春季大会、市民体育大会及び新人戦大会は4回終了時10点差、5回以降7点差とする。

但し、決勝戦は、点差によるコールドゲームを適用しない

ロ 日ハム杯・予選大会及び、ジュニア大会は、3回終了時10点差、4回以降7点差とする。

(2) 日没、降雨等によるコールドゲームの成立。

イ 春季大会、市民体育大会及び新人戦大会は、4回終了時点。

但し、既定のイニング数に達していない場合は、再試合とする。

ロ 日ハム杯・予選大会及び、ジュニア大会は、3回終了時点。

但し、既定のイニング数に達していない場合は、再試合とする。

5. 投手について

(1) 投手のボークは、1回目は注意を、2回目からはボークを宣告する。

但し、その動作が明らかな場合は、1回目からボークを宣告することが出来る。

【注】注意とは、セットポジションで「送球の際肩が動いた」或いは、「打者が打席内でまだ十分な構えをしていないとき（クイックピッチ）などで、以降動作を改めることが出来る場合を指す。

(2) 投手の送球練習は、初回と交代時は7球とし、他は3球とする。但し、1分以内とする。

なお、突然の事故等のためにウォームアップをする機会が得られないで登板した投手には、球審は必要と思われる数の投球を許してもよい。

(3) 投手の牽制球が、悪送球等によりボールデッドラインを超えた場合は、投手がプレートを「踏んでい
る」「踏んでいない」に拘わらず、走者に「1個のベース」の進塁権をあたえる。

(4) 投手の投球において変化球は禁止する。ただし、注意を与えても尚改善のないときは故意又は自然
(ナチュラル)にかかわらず投手の交代を命ずる。

6. タイムについて

(1) 監督が同一イニングで投手を2回呼ぶ、伝令を使う、捕手又は他の選手に指示し直接投手のところに行かせた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。

ただし、他の守備位置につかせる事は許される。

(2) 守備中に監督または捕手を含む野手2名以上が、1試合に投手のところに行く回数は、1試合で3回までとする。また、攻撃中に監督が打者及び走者に対する指示も1試合で3回までとする。

なお、延長戦（特別延長戦を含む）の場合は1イニングで1回とする。

(3) タイムにおいて監督は、ピッチャーマウンドで指示することが出来る。

ただし、その行き帰りは小走りでスピーディーに行う。

7. 特別事項

(1) 試合に関する事項

イ 故意による隠し球は禁止する。

ロ 攻守交替の際投球練習の投球を、控えの選手が捕球する場合、危険防止の為、マスク（スロートガード付）、プロテクター、ヘルメット及びレガースを着用する。

ハ 指導者及びベンチ入りする際のユニフォームの着用で「ロングパンツ」は認めない。

【注】ズボンの穿き方は、必ずストッキングが3分の2以上見えるようにはく。

ニ ベンチ内のメガホンの使用は監督のみとする。

ホ グラウンドルールは、予め第一試合で確定し、以後の試合も引き継ぐものとする。

(審判員の確認事項)

へ 試合中のファールボールは、それぞれのベンチが拾いに行く。

ト 試合球は、原則として各チーム2個ずつ提供する。

(2) ボールデッドライン付近の飛球の処理について

・ボールデッドライン付近の飛球の捕球について、勢いある連続プレーでプレーヤーがボールデッドライン外に飛び出した場合、軟式野球規則6.05(a原注)、7.04(c)等に規定するルールを拡大処置し、次のルールを適用する。

イ 野手の捕球位置が片足でもボールデッドラインを超えてしまった場合は、ファールボールとする。

ロ ラインの内側(ボールデッドゾーンの外側)で捕球後、勢いでボールデッドラインを超えてしまった場合は、インプレーし通常の野球規則を適用する。

但し、飛球をラインの内側で捕球後ボールデッドラインを越えて倒れこみ、送球動作が不可能になった場合はボールデッドとし、打者はアウト、走者はその捕球時に占有していた塁を基準として、各走者に1個の塁が与えられる。

(3) 応援等に関する事項

イ 試合中はベンチ入りしている者以外、選手に直接又は間接的に指示をしてはならない。

選手が学童である点を十分理解し、節度ある応援を心掛ける。

ロ グラウンド内は全て禁煙(厳守)とする。

ハ 応援の際のハンドマイク、笛、及び太鼓等の使用は禁止する。また、選手を罵倒するような言動は厳に慎む。

8. この規定で定めのないものについては、公認野球規則、全日本軟式野球連盟「学童の部」の規則による。